

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570200669		
法人名	社会福祉法人 豊の里		
事業所名	グループホーム2ユニットしらゆり	ユニット名	しらゆり
所在地	宮崎県都城市下長飯町1640番地		
自己評価作成日	平成22年7月25日	評価結果市町村受理日	平成22年10月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.kokuhoren-miyazaki.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4570200669&amp;SCD=320">http://kouhyou.kokuhoren-miyazaki.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4570200669&amp;SCD=320</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成22年8月18日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームでは、管理栄養士の献立により調理された食事を提供しており利用者様の健康管理に努めている。いつまでも現状を保っていただき、元気に過ごす事ができるように午前中は散歩、体操、レクリエーションといった身体機能保持に努めている。午後からはゆっくりと入浴時間を設け、満足していただくとともに、職員と利用者のコミュニケーションをより多く、大切にしながら信頼関係を築いている。当グループには認知症専門医の物忘れ外来が有り、専門医を受診し相談をする事で利用者の精神面も安定してきて、認知症専門職としてのケアを提供している。さらに自治会への加入により地域との信頼関係も構築してきており、利用者の生活歴を生かした地域貢献を継続的に行なっている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

都城市郊外に位置するホームは、併設の特別養護老人ホーム等の複合施設がある広大な敷地の一角にある。また、周辺は振興住宅地でもあり、ホームは地域の公民館活動や地域住民とのふれあいを大切に、防災や見守り活動の輪を広げていくために、地域の協力を得られるような地域貢献活動を積極的に行っている。ホームで生活している利用者や職員は、常に笑顔が絶えず、利用者の個性を大切に取組の中で、自然体で寄り添うことができる支援がなされている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	しらゆり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を作り、日々朝礼・終了後唱和し、理念についての理解をしている。		法人の理念とは別に、住み慣れた地域を大切にしたいホーム独自の理念があり、職員は日々理念に沿った支援ができるように意識しながら業務を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	藤田地区自治公民館に入り、地域の一人員として班活動に参加したり(掃除)、行事に参加(舞踊)してもらっている。 公民館の通信等を配布してもらっている。		自治公民館に加入して、地域行事に利用者や職員と一緒に参加する機会が増えてきた。また、地域住民のホームへの来訪もあり、地域との連携や協力体制も日常的なものになってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年間を通じて雑巾や小物等を作っており、過去2年間は幼稚園、保育所、小・中学校、ホテルに進呈している。現在雑巾90枚、巾着袋等作成中で進呈の計画中である。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回のペースで会議を行い、利用者状況や行事等の報告をし、構成員メンバーの意見を頂き活かしている。		運営推進会議では、公民館長や社会福祉協議会職員、家族代表など、地域に密着した方々の参加により活発な意見交換ができています。また、出された意見については、職員会議等で他の職員に周知し、ホーム運営や利用者支援に役立てるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の構成員として、市職員に参加して頂き実情や取組について伝えている。昨年までは介護相談員が月2回訪問をしていた。		市町村担当者や行政関係者等との連絡や連携は、主に管理者や介護支援専門員がとるようにしており、制度やケアに関することなどの助言をいつでもいただける関係づくりができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠についてはチャイムで対応し、自由に出入りできるようになっている。 身体拘束についての資料を職員に配布しスタッフ会議で話し合っている。		これまで玄関に施錠をしてきたが、昨年からは施錠を廃止したことで、利用者の行動や外出の際の寄り添いケアができるようになっている。職員は、拘束せず施錠しないという意識が定着し、見守ることで支援するようになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払っている	虐待についての資料を職員に配布し、スタッフ会議で話し合っている。			

自己	外部	項目	自己評価	しらゆり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度のパンフレットを元に学び、制度の理解をしているが、今までに利用者家族からの相談を受けてはいない。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に重要事項説明書、利用計画書に基づき詳しく説明する事で、利用者やご家族に十分理解、納得して頂くよう努めている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書の中で管理者が苦情窓口である旨及び行政機関の苦情受付窓口をお知らせしている。また、年2回のアンケート調査で意見を聞き、運営に反映させている。		苦情や意見はこれまで特になく、家族からの意見収集はアンケートや家族会等で集約するようにしている。しかし、利用者支援の内容やホームの運営について、積極的な意見を伺う機会は少ない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議で意見交換を実施している。また、経営者と管理者は月次報告により協議する場を設けている。		管理者は、ほとんど毎日職員の意見を聞く時間を設けており、定例の職員会議でもハード面、ソフト面についての意見を聞いている。管理者はその意見を集約して、経営者にメール等で伝えるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課で自己評価し、各職員との面談を行い、各自の要望等を聞き取り、役割役目を決め、職員一人ひとりが責任を持って働けるよう環境作りに努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立て、各自に合った研修を受けられるようにしている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	都城・三股地区グループホーム定例会に参加し、情報交換を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	しらゆり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学に来られた時、利用者様から良く話を聞き、不安を取り除き、相談し易い雰囲気作りに心掛け、家族や本人の要望を聞いている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に至るまでは何度も話し合い、電話連絡を密にする事で、不安を軽減し、希望の受け入れができるよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療に関する相談が多いのが現実であるが、グループ法人内の他の事業所、居宅、診療所と連携し、必要な支援を検討している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話の中から本人ができる事を引き出し、一緒に手伝ってもらい、役割作りをして生き甲斐を持ってもらうようにしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会を運営する中で、環境整備や行事等に参加して頂き、一緒になって支えていく関係を築くよう努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	初詣に出かけたり、お出かけデイを設け、利用者の自宅へ出かけ、近所の方と接する機会を作っている。	ホームに入居する前にできていたことや、習慣として行ってきたことは、入居後も継続できる支援ができており、利用者の意欲増進になっている。また、入居後に自宅訪問などを行い、家族や近隣住民と会食したりすることで、利用者に安心感をもってもらえるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握しながら、座る席の配置を考慮している。掃除、洗濯物たたみ、食事の準備、片付け等それぞれ役割を持ち、皆で行えるよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	しらゆり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退所された時など、その後の相談にも乗るようにしており、状況に応じた移り先へのフォローをしている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で希望や意向などを聞きだし、把握するように努めているが、困難な場合はご家族と話し合い、本人にとって一番のケアは何か考え取り組んでいる。		アセスメントで利用者の願いや支援してほしいことを把握できており、時間や場所に配慮した支援がなされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族から生活歴、馴染みの生活を聞き出し、記録に残す事で全職員が把握できるよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の心身状態を職員間で共有し、総合的に把握できるように努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に利用者や家族の意見、要望を聞き、職員間でカンファレンスを行い、介護計画を作成をしている。		計画作成担当者を中心に、定期または随時に担当者会議を行い、利用者の意向に沿ったプランを作成している。プランの評価は毎月行い、見直しは定期または随時行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々録として毎日の身体状況、介護計画の実施状況を個別記録し、情報の共有と把握に努めつつ、介護計画の見直しを図っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の身体状況や、ご家族を取り巻く環境等の相談に応じ、その方に合ったサービスを受けられるよう支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	しらゆり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティア(NPO)の演奏会を開き、職員の見守りの中、安全に楽しい時間を過ごすように支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各利用者方、家族の方の希望に添った医療機関と連携を取り、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者は入居前の掛かりつけ医であったり、ホームの関連医療機関を掛かりつけ医としている場合もあるが、いずれもホームとの連携はうまく取れており、利用者は安心して医療を受けることができている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の特変時等、直ぐに看護職に連絡し、指示を仰ぎ、利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、本人・家族との面会や医療機関との連携を図り、情報収集しながら関係づくりを行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から家族と話し合い、事業所ができる事を十分説明し、本人・家族の希望を取り入れ支援している。	重度の方の緩和ケアを実践している中で、重度者の受け入れや終末期の看取りについては、日ごろから職員間の意識も高く、掛かりつけ医や家族との連携等、ホームの方針の共有ができている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職による応急救護を学んでいる。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火器の取り扱い、避難経路等について周知し、防災訓練をしている。地域との協力体制も得ていて、9月に地域住民参加の避難訓練を実施予定。	自治公民館や地域住民との防災会議を開催して、災害対策についての訓練の実施や、防災についての協力体制を確立している。また、地域消防団との連携も取れている。		

自己	外部	項目	自己評価	しらゆり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間での話では、イニシャルで名前を使い分け、プライバシーやプライドを損ねないようにしている。	職員の利用者への対応はやさしく、プライバシーに配慮したさりげない声かけができており、利用者のペースに沿った支援がなされている。また、利用者個人に関する記録や台帳などの管理も適切にできている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、利用者が訴える事があった時は傾聴し、思いや希望をかなえられるようにゆっくりと話を聞いて、どうしたいか自己決定できるように働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	10時のお茶時間に、今日は何をしたいか等の本人の希望を聴き取り、その日の体調や気分を受け入れ支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	鏡・ブラシを手渡し、身だしなみを整えたり、お化粧をしてもらっている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の野菜を漬物にしたり、おやつ等を作ったり、食事の配膳や片付けは積極的に参加して、職員と一緒に力を合わせている。	毎日のおやつは、利用者職員の手作りである。刻みの必要な利用者でも、あらかじめ刻まず、形あるものを提供した後に、職員がほぐすなどのさりげない配慮がある。また、食前の準備や後片づけも利用者職員が一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量をチェックして栄養バランスを管理している。その人に合った食事形態や、食器の工夫を行い支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施。入れ歯については週一回ポリドントでの洗浄を実施している。また、クリニック歯科にて年1回の検診を受けている。			

自己	外部	項目	自己評価	しらゆり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時誘導し、その人に合った排泄パターンに合わせて支援できている。		日中は全利用者の排泄について、必ずトイレ誘導を基本にし、排泄の自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量、水分量のチェック、排便チェック、服薬管理、繊維物(芋、バナナ)を摂取できるように努めている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は午後から毎日対応しており、希望に応じて楽しんでもらっている。		入浴の回数は一人当たり週3回としているが、利用者の希望や、ニーズに応じて回数調整を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調により、利用者が必要と思われる休息をして頂いている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	週1回のドクターの定期回診時に症状の伝達を行っている。また、薬の変更があった時は伝達簿にて職員に周知している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝の掃除、洗濯物たたみ、チリ捨て、おやつ作り、食事の配膳、食器拭き、片付けなど役割分担を利用者が把握しており、自主的に活動している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	午前中の活動の中に外出、散歩の機会を設けている。最近では利用者の希望により、座長大会(志布志大黒)に出かけた。		日中の利用者の意向に応じて、いつでも付き添いながらホーム周辺を散歩する支援を行っている。また、お出かけデイの日は、食事や娯楽、買物などができるように楽しみの支援をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	しらゆり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使う機会はない。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて職員が家族への連絡を取り、可能であれば利用者本人を電話口へ誘導し、会話ができる環境を作る。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日気温、湿度の管理を行い、換気や温度の調整を行う。利用者と一緒に作成した作品を壁に飾り、その時期の季節感を感じる事ができる。		食堂ホールはゆったりと座れるソファがあり、雑誌なども置いてある。また換気や採光もよい。トイレや浴室も整理されており、手すりの設置など、利用者が快適に使用できるように工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの個性や性格を把握し、特定の座席を決め、馴染みのある座席の場所をつくる。ゆったりと過ごせるソファを用意しつづける場所がある。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使っていた筆筒や小物等、家族の思い出など、居室に置いたりできる環境を作っている。		居室入口の戸は、真ん中からスライドできるようになっており、開けると居室内のほとんどが見える構造になっている。一部のれんなどでプライバシー保護がしてあるが、半数の居室はそのような工夫がなく、季節感などの配慮も少ない。	プライバシー保護のため、のれん等を用い、全居室に同じような工夫がほしい。また、時計やカレンダー、季節的な絵など、時や季節が理解できるような配慮を期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに応じた活動や洗濯物たたみ、洗い物、茶碗拭きをお願いし、本人の「できる事」に取り組んでいただけるように環境作りをしている。			